

文書

療養所のカルテ



入所名簿と受診名簿の表紙

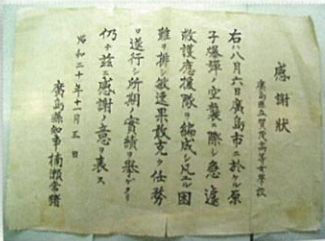
残存していたカルテ
八月三十日午後六時
十五分死亡とある。



第八名を惜しむ
死を知る者は強し
生きて虜囚の辱を受けず、死して

松田 敏彦所持の戦陣訓
中学生は全員所持、暗唱した
戦地での教えである。
「生きて虜囚の辱を受けず、
多くの兵士に死を選ばせた。」

県立賀茂高等女学校感謝状
県知事から広島救援活動に
たいする感謝状



原爆医療の父



重藤 文夫博士
東広島市名誉市民
広島市名誉市民
原爆医療の研究に勤し
む。大江健三郎氏は博士
を篤く尊敬していた。

記念碑



賀北部隊 原爆被災者救援之碑
(東広島市中央公園内)

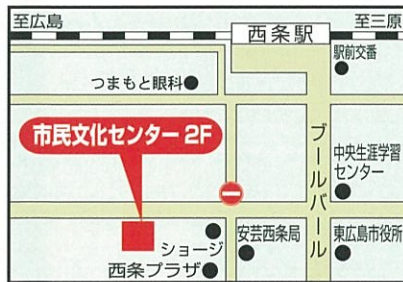


東広島市 原爆死没者慰霊碑
(東広島市八本松地域センター内)

平和活動



平和学習バス 折り鶴を捧げる参加児童
(広島市平和公園内)



原爆資料展示場

山陽本線 西条駅下車
南方へ徒歩約10分
東広島市市民文化センター2F
(サンスクエア図書館隣り)
駐車場あり。

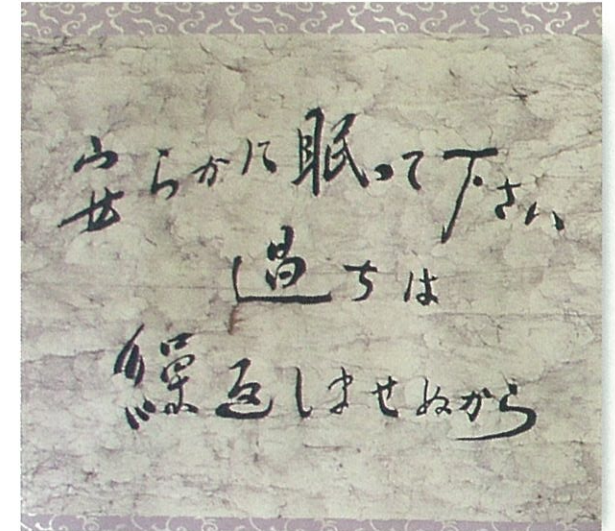
研究資料室 東広島市八本松地域センター内(八本松駅より徒歩約10分)

事務局

〒739-0001
東広島市西条町西条479-3
吉岡 真喜夫 方
電話:082-422-6214

2015.3

東広島市 原爆資料展示室



原爆慰霊碑拓本 1981年、ローマ法王パウロ2世が原爆慰霊碑前で「広島を考へることは核戦争を拒否することである」と宣言した。この慰霊碑の軸装拓本は法王庁への寄贈品としてつくられた4本の内の1本である。(当会所蔵)

東広島市原爆被爆資料保存推進協議会

広島原爆投下

1945(昭和20)年8月6日午前8時15分、広島に世界最初の原子爆弾が投下された。

原爆による熱線、放射線、爆風は一瞬にして市民を殺し、広島を廃墟とした。当市は広島市の東約30 km にあり、通学・通勤圏にあり、各地で原爆雲が見えた。(傷痍軍人広島療養所で見えた原爆雲の写真を展示。)

西条在住の重藤 文夫博士(後に原爆病院長)は広島駅で被爆し、日本赤十字病院で不眠不休の医療活動を行う(パンフレット「重藤文夫博士の足跡」参照)。

須子 武(広島一中生徒)は、8月6日午前5時西条駅出発、学徒動員で広島に行き被爆し、顔は焼かれ、痛ましい体になって同8日に西条に帰り、大変苦しんだ後、同13日に亡くなった。(遺品の帽子、ズボン、ゲートルなどを展示)

松田 敏彦(広島市一工生徒)は8月6日疎開先の西条から広島の工場に向かい、3日後担架に乗せられ西条に帰り、同21日に亡くなった。(遺品の学生服、戦陣訓などを展示)

原爆投下直後から、当市所在の賀北部隊、傷痍軍人広島療養所(以下療養所と略称)、賀茂海軍衛生学校、県立賀茂高等女学校救援隊が広島救援のため入市して活動した。(写真など展示)

また、療養所では、搬送されてきた多くの被爆負傷者を治療した。(カルテの写真を展示)

展示されている遺品・被爆資料から当時の悲惨さを、今でも苦しむ被爆者のことを考え、戦争することの愚かしいこと、平和の大切さを学んでいただきたいと思います。

広島への救援部隊

賀北部隊 国土防衛隊(陸軍)2ヶ中隊250名は8月7日午前5時西条駅出発。海田駅から徒歩で、広島駅北の東練兵場から広島城跡、西練兵場に集結する。

広島城跡を中心に被爆軍人の死体焼却処理、横川方面の防護、救援活動にあたった。「(「ヒロシマ残留放射能の四十二年」NHK出版)参照)

傷痍軍人広島療養所 8月6日、第1班10名青崎小学校を拠点に活動。第1、2班は8月7日から同15日まで、マーキュロ消毒、火傷にチンク油を施す。それ以降も隔日に8月末まで活動する。(8月6日療養所の出発式の写真を展示)

賀茂海軍衛生学校(黒瀬町乃美尾)約50名の学生がトラック3台に約1000人分の治療薬品、包帯材料を搭載して広島へ。横川駅前三條信用組合を拠点として約500人に、強心剤、モルヒネ注射の医療活動をし、8月7日の朝までに持参薬品類を消費した。(救援活動の写真を展示)

賀茂高等女学校 本川小学校と大河小学校で岡山医学専門学校の学生とともに救助活動を行う。(広島県知事からの表彰状を展示)

東広島市の平和活動

平和学習バス 1985年から毎年市内の全小中学校の代表児童生徒を対象に広島平和記念資料館を中心に平和教育を行っている。また、感想文集を発行している。

原爆死没者慰霊碑 毎年新たに死没した被爆者の名簿を収め世界平和と冥福を祈る。

賀北部隊原爆被災者救援之碑 毎年旧隊員が集まり世界平和と冥福を祈っていたが、高齢化が進み今では中止。

きのこ雲



療養所(現東広島医療センター)から見えた原爆雲。(鴉田藤太郎氏提供)

広島救援



療養所救援隊(現東広島医療センター) 8月6日の広島救援出発式。(広島原爆障害対策協議会提供)



賀北部隊の救援隊 旧賀北部隊員による救援作業の再現。(ヒロシマ残留放射能の四十二年より)



遺品



ヘルメット 髪の毛が焼き付いている。

須子 武の遺品

学生ズボン

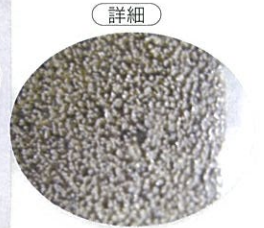


学生帽



ゲートル

遺物



丸瓦 原爆の熱線で瓦の表面が溶けて粒状になっている。



平瓦 火災で長時間高温となり瓦の成分がガスとなり蒸しパン状となっている。